

平成21年度宇都宮市食育推進会議 会議記録（概要）

■ 日時

平成22年2月18日（木） 午前10時～11時30分

■ 場所

宇都宮市保健所 3階大会議室

■ 出席者

【委員】12名

熊本和夫委員，小宮秀明委員，毛塚清委員，青木孝之委員，金枝右子委員，大塚一好委員，亀井實委員，渡辺政行委員，鶴見充衛委員，半田俊江委員，塩濱真由美委員，青木浩子委員

【事務局】10名

保健福祉部長，保健福祉部次長兼保健所長，健康増進課長，産業政策課長，健康増進課課長補佐，健康増進課健康づくりグループ係長，学校健康課学校食育グループ係長，健康増進課健康づくりグループ総括主査・専任主査・主事

■ 会議経過

1 開会

2 保健福祉部長あいさつ

3 委員紹介

4 会長，副会長の選任

会長：小宮秀明委員 副会長：熊本和夫委員

5 議事

- ・ 「宇都宮市食育推進計画」の取り組み状況について（事務局説明）

【質疑応答】

● 委員

学校給食を食べる機会があり，地元産の苺を使い，地元のケーキ屋に依頼して作った苺のケーキを食べた。子どもたちにとっては，「量より質」が大切であり，地元で採れた食材を使うなど，食の安全・安心の取り組みを導入した学校給食を推進していることにとっても感心している。今後とも是非，学校給食の支援に取り組んでほしい。

○ 委員長

計画策定時に，各ライフステージを設定し，特に，小学校期や幼児期に基軸を置いた食育活動を計画に位置づけた経緯がある。宇都宮市においては，特に，学校における「お弁当の日」の取り組みや「食育シンポジウム」の開催など，市を挙げて子ども達の食育の啓蒙活動と推進活動に取

り組んでいると思うが、事務局としてはどう考えるか。

□ 事務局

・学校での食育の取り組みについてご理解いただき、感謝申し上げます。学校では、「食育」を学校教育の1つの柱として位置づけており、学校・家庭・地域・企業が連携して、様々な食育事業を展開している。

・(ただ単に、地元産の食材を使うということだけではなく、)地産池消の取組みは、子ども達が生産者への感謝の気持ちを持つことや、食のありがたみを理解するのに、非常に大きな効果を生むことから、今後も積極的に推進していきたい。

・ 宇都宮市食育推進計画概要について（事務局説明）

【質疑応答】 なし

・ 食育に関する意識調査【一般】の概要について（事務局説明）

【質疑応答】

● 委員

・朝食については、保育園や幼稚園、小学校、中学校での食育の取り組みを通じて、朝ごはんを食べることの重要性をしっかりと見据えていながら、高校生が卒業して1人暮らしを始めるなどの理由で、親の手を離れ、食事を摂らなくなってしまうような状況について、積み上げてきた食育が途中で途切れてしまっているように感じる。30代になると、結婚や子育てをきっかけに、食育を再認識できると思うが、20代の落ち込みを小さくしていくことが重要であると考えている。この世代への働きかけについて、市はどのように考えているのか。

□ 事務局

・朝食の欠食について、平成20年国民健康・栄養調査の結果をみると、(国全体としても、)20代男性を除いて、欠食率が増加している状況にあり、子供も含め、欠食率は増加傾向にあると認識している。特に、20代や30代は、仕事の忙しさや、高校生頃からの朝食の欠食習慣が影響している。

・市としては、職域と連携しながら保健事業を進めていく中で、働き盛りの世代に対してどういうアプローチが出来るかの検討をするため、平成21年度に市内の事業所や中小企業を対象としたアンケート調査を実施した。結果として、行政からの健康に関する情報提供を要望する声が多く聞かれた。これまでも、保健福祉の出前講座や食育フェアなどのイベントを通して、食育の普及啓発に取り組んできたが、平成22年度からは、事業所からの要望を踏まえ、何らかの形で、食育に限らず健康に関する情報を発信していきたい。その中で、事業所を通じた食育や朝食等の重要性についての普及啓発活動を実施していきたい。

・今まで、市の保健行政については、地域、あるいは教育委員会の力を借りて、学校を通じた意識啓発活動が中心で、(成人に対する啓発活動については、)全市民を対象とした食育イベントに留まっていた。働く世代への働きかけについては、労働衛生や産業衛生という視点が強かったが、国を挙げて食育の取り組みを推進していく中で、ありとあらゆるチャンネルを利用して、食育に対する関心を高めてもらうため、取り組んでいきたい

● 委員

・保育園児や小中学生にも朝食欠食者がいるということが一番気になる。朝、学校へ行くときに子供たちが元気に挨拶をして登校できるのか、それを親がどう見送っているのかが心配である。あいさつの声の大きさは、その子が前向きに学校に向かっているかどうかの判断の材料になる。朝食を食べないで行く、それを送り出す親はどのような姿で見送っているのか、保護者が子供たちどこまで目を向けているのか、疑問に思うので、朝ごはんを食べることの重要性と併せて、あいさつやコミュニケーションをテーマとした講習会等の開催に取り組んでほしい。

・20代の欠食者が多いことについて、朝食を食べる気力がないということは、社会に出る気力もないのではないかと感じる。20代を対象とした取組みは必要であり、それらの世代を指導していく上で、どのように事業を展開していくのが疑問であったが、事業所での講座の開催など、今後の取組みの方向性を聞いて安心した。(食育は、)本人の意識の改善が重要であるため、気付かせるという視点でもって、食育の推進に取り組んでほしい。

□ 事務局

職域への取組みについては、事業所での食育講座の開催という話もあったが、今のところ、職員等が出向く形が良いのか、あるいは、パンフレット等を配付する形がよいのか、方法に関しては、今後、検討していく。また、これまでも出前講座という形で、福祉分野も含めた保健分野に関する講座を開催しているので、事業所等の希望に応じて、出前講座の形で実施することも可能だと考えている。

● 委員

・BMIの状況について、肥満と痩せの割合が上昇していて、普通の割合が減少しているのが、心配である。今後の対策として、(食生活の改善以外に、)肥満の方の精神面のケアが必要であると考え。また、精神的なケアも含め、バランスのよい食事の摂り方や食事時間等の指導については、医師や栄養士が実施していると聞いているが、まだまだ浸透していないので、肥満の方の精神的ケアについても対応してほしい。痩せについては、絶食など過度のダイエットや痩身が心配であり、やはり、精神面での不安や悩みがあるように思う。こういった方々への精神面でのケアに取り組んでほしい。

□ 事務局

・精神面のケアについては、保健所保健予防課が、「こころの健康」をテーマに事業を展開している。例えば、保健師が、電話相談や面接相談に対応したり、相談内容によっては、精神科医師に対応をお願いしている場合もある。

・うつ病については、病後の食欲の落ち込みなど、栄養摂取面でも影響がある。また、うつ病は自殺の最大の原因の一つとも言われていることから、市では、自殺対策として庁内の窓口、生活保護など、様々な相談部門の職員を集め、研修を実施している。うつ傾向がある人がいた場合には、本人の了解を得た上で、各相談部門で連絡を取りあって、必要に応じて、保健予防課の保健師が相談を受ける体制をとっている。うつ関係の相談の中で、食事等の相談があった場合は、健康全般に関する基礎的な知識を持つ保健師が対応しているが、必要に応じて、保健所健康増進課に在籍する管理栄養士につなぐ体制をとっていく。

・また、様々なイベントを通して、気分障害や精神疾患について理解を進めるための啓発活動を実施している。浸透の具合がどの程度かの判断は難しいが、こうした事業についても継続して実施していく。

・ **食育に関する意識調査【幼児】の概要について（事務局説明）**

【質疑応答】

● **委員**

食は命の安全であると考えており、様々な食育事業に取り組んでいることを、とても素晴らしいと感じているが、そういった取組みと併せて、食育を推進するリーダーの養成も非常に大切だと思う。「消費・安全対策交付金」の中に、食育の推進も組み込まれているようであるので、是非食育推進活動の一貫として、食育を指導するリーダーの養成も視野に入れて取り組んでほしい。

□ **事務局**

・市としては、一方的な情報発信や働きかけだけではなく、行政と市民が一緒になって食育を推進していくことが重要だと考える。食育の指導者の養成について、市では、健康づくり推進員・食生活改善推進員というボランティアの養成に取り組んでおり、養成講座を開催し、講座修了後は、各地区で推進員として、率先して、健康づくりや食育に関する活動を実践していただいている。

・平成21年度末現在で、宇都宮市内全39地区のうち33地区に、健康づくり推進員・食生活改善推進員の組織化を予定している。既に、組織化されている地区については、食育活動に取り組んでいただいているが、今後も、推進員の養成に取り組むとともに、推進員が中心となって地域の住民の方と一緒に取組みを実施できるような体制づくりを支援していく。

5 保健所長あいさつ

6 閉会